衣服の着心地に関する教育プログラムの開発をめざした研究

教育実践専攻　12AW146 中田いずみ　指導教員　薩本弥生

1. 研究の背景と目的

家庭科の衣生活内容	・「着心地・快適性」→重要な学習内容
生徒の生活実態	・「素材の選択・衣服の着方」等→実生活に活用されていない
震災等における経験	・「ファッション性・社会規範」と比べて「着心地・快適性」を優先すべき状況を経験

学習指導要領・教科書調査より→「着心地」学習の重要性ＵＰ

高大アンケート調査より→「着心地」学習不十分

着心地に関わる研究

研究成果をもとに‥

学習教材・教育プログラムの提案

暑熱環境下における着衣の検討

WBGT熱中症予防警報メールの配信

教育環境の整備

2. 授業の実践について

教育プログラムの試案：テーマ「素材と着方を工夫して着心地を考える～暑い夏を快適にすごそう！～」

授業実践：2013年7月に神奈川県の県立高等学校の家庭基礎5講座（167名（男子71名、女子96名））を対象

授業の評価：授業前後にアンケート調査実施（有効回答数139名（有効回答率83.23%））

解析方法：授業の感想の自由記述の集計および、アンケート項目についてSPSSver.20を用いて平均値の差の検定他

3. 教育プログラムの試案について

Table1.教育プログラムの試案内容

	時間(分)	学習活動と内容	使用した学習教材	授業の様子・生徒の感想
導入	15	色分け（■：現象、■素材、■着方） ・ポリ袋を用いた不感蒸泄体験 学びのポイント **湿気と水の流れ**と**着心地** ・本時の流れ紹介 学びのポイント　**着心地**		ち悪い。
展開	10	・身近な被服で考えよう！：**着方** ①ワイシャツと肌着 学びのポイント **湿気の流れ**		どの大切さがわかってよかったと思う。できるようと思った。
展開	10	②肌着の**素材** 学びのポイント **肌触り**		肌着を着たらよけい暑くなると思ってたけど、実際はすずしいってことを知って、おどろきました。
展開	15	③Tシャツ（スポーツウエア）：**着方** 学びのポイント **水の流れ** 学びのポイント **空気の流れ・ふいご効果**		スポーツウエアって着たことないから、知らなかったけど、あんな工夫されてるなんて、思ってもみなかった。
展開	10	④ワイシャツでクールビズ：**着方** 学びのポイント **空気の流れ・煙突効果**		
展開	5	⑤被服の色：**素材** 学びのポイント **太陽の日射**		これからもっと暑くなるので、自分の服装にも工夫をして、暑い夏を乗りこえようと思います。
まとめ	5	・本時の内容を振り返る。		工夫しだいで同じ衣服でも快適さが異なるのを知って、もっと涼しい服で夏を過ごしたいです。

4. 授業の評価から考察する今後の課題（授業前後のアンケート調査結果より）

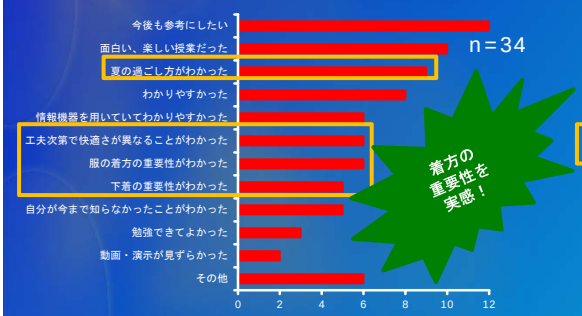

Fig 1 .授業後の感想の自由記述集計結果

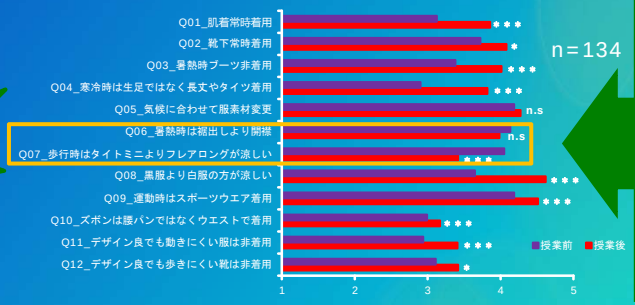

Fig 2 .授業前後のアンケート調査項目の対応のある平均値の差の検定結果

今後の課題

素材の工夫

【湿気・水の流れ】

→蒸れると着心地が悪いことをポリ袋を用いて全員が実体験。

【空気の流れ】

→実物を触ったり、視覚的に空気の流れを示したが、実体験はせず。

⇒空気の流れをより実体験として感じ、考えられる教材の工夫が更に必要。